

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270604152		
法人名	有限会社 グループホームせいゆう荘		
事業所名	有限会社 グループホームせいゆう荘	ユニット名	2号棟
所在地	長崎県五島市上崎山町430-1		
自己評価作成日	平成29年11月22日	評価結果市町村受理日	平成年月日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の正面には海が見渡せ裏手には五島のシンボルである鬼岳を見上げる自然豊かな環境の下利用者さんはそれぞれの身体機能に応じた日常生活を送っている。敷地内にある小さな畑に季節毎の野菜を植え成長過程を見守りながら収穫の喜びに感謝しどのように調理して食べようかと話しながら爽りの時期を待っています。利用者さんと共に癒し癒されながらその人らしく穏やかに暮らしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年12月17日	評価確定日	平成年月日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の主張に合わせて臨機応変に対応しケアを通じて理念を実践につなげている。主に会話によって実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶を基本に地域の行事にも参加し地域の方からも施設に来ていただき交流している。交流を通じて面識を持たれた方を施設行事などに招待し更に深めて行きたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別なことは行っていないが運営推進会議を通じて認知症の理解や支援方法を地域にお願いしている。別施設と地域ミニデイサービスの繋がりは継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間に6回運営推進会議を実施している。取り組んだ事を報告したり問題点など議題にして話し合う。利用者さんの声を参加者さんに聞いてもらえるよう会議参加を促したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所相談や介護認定更新書類提出の際協力、対応してもらっている。今年は事故報告の頻度が多く指導も受けた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所して半年近く経過し今は落ち着いているので二重鍵は行っていない。開閉ブザーのみ使用して対応している。入居者さんの状態に応じて使いわけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に学ぶ機会には設けていないがケア会議でスタッフに虐待防止の認識を高めてもらいTVや新聞のニュースでそのようなニュースを聞いた時にスタッフミーティングで議題にしてリして自覚をもってもらう。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族が金銭管理に協力できない入居者さんが利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前になるべく本人と一度面識する事で不安を軽減し施設で共同生活を始めることを説明しご家族にはスタッフと共に利用者さんを支えてもらう必要性を説明し契約書・重要事項説明書に沿って丁寧な説明を行い理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	試みとして働きやすい・働き甲斐のある職場についてチェックリストを職員に行ってみたり施設長とマンツーマンの面談も予定している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を見ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を確保するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2回/年訪問している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今必要としているサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での介護が困難だったり今後一人暮らしが難しいとの判断で入所されてくるので今一番困っていることから始める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の事出来ない事を支援しながら出来る事、出来ない事を生活のなかから見極めて対応を決めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをお手伝いしてもらっている。食事やお茶の時間にゆとりをもってゆっくり会話できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりや面会時に日々の暮らしぶりを伝えている。体調の急変時や不穏時に家族にも協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会をお願いしている。友人や地域の方々の面会には同席して今後もお付き合いをお願いする。家族以外の面会者にも時々おたよりを出したい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士あまりにも接近しすぎている場合にはスタッフが入り距離を置くようにする。自分の意見を言われ喧嘩が始まるときはスタッフが対応する。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約が終了するとなかなか面会に行くことも出来ないが家族の方とは荘外で会うと話ができる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望がかなうように努めている。自由がある生活が自分のリズムでの生活になっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を通して今までの生活の様子を知ることができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤を勤めているスタッフは日中・夜間と共に過ごしてその人の生活のリズム、これから提供できるサービスを見つけられる。夜間の様子をもっと詳しくスタッフに伝えていきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々問題点は記録に残してスタッフ全員で共有し問題解決に努める。統一した介護ができるようにする。細かな介護内容は日々変わったりするので申し送りをしっかり行いたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に日中と夜間帯で状態を記入し新情報は業務日誌で伝える。その他に各棟同士のミーティングも行っている。なるべく勤務始めの段階で記録や情報記入を確認するようにしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんや家族にスタッフが合わせる対応を心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	症状が安定していれば医師や家族の許可を得て医療機関を一本化し体調管理の支援を行っている。その他訪問歯科診療は今年から始め訪問理容も利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診・特定検診で主治医と連携して体調変化時は早期受診対応で健康管理に努めている。予防接種も受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	荘内の看護職に入居者の体調急変時やアクシデント時報告して受診や医療機関との対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフも面会に行き不安を軽減に努め治療に専念できるよう声掛け心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの希望はあるが現状では看取り介護の体制が出来ていない。方針は家族と話し合いを行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一昨年7月に救急救命実技講習を受けましたが実際必要になったことがなく定期的な自主訓練の復習が必要と思う。体調急変時は医療機関と連携して対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災消化避難訓練は定期的の実施している。災害や事故対応のマニュアルを自施設で見直しして分かりやすく作り直し皆がいつでも見直し出来る様設置している。災害訓練の実施を目標計画に掲げていたがスタッフ不足の現状から実施できていない。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	危険を伴う時はきつい口調になるが通常は本人が理解できやすい方言で声掛け対応している。スタッフ1人で一度に2・3人の利用者に対応しなくてはならない時早口で簡単に終わらせる事がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の一部の方しか自己主張できなくなっている為スタッフのほうから聞き取り希望に応じられるように努める。もとろん家族の協力が必要とされる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望されるドライブ・買い物等外出も出来る限り対応している。不穩時の家族面会や電話対応もおこなっている。不穩者の対応をもっと丁寧出来るように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度の手伝いや訪問理容など対応している。服の繕いやボタンつけなど行っている。汚染した衣服の洗濯など支援している。外出着と部屋着を使い分けたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには利用者の好みを取り入れるようにしている。バランスの良い食事を目指すという目標から3月に管理栄養士にチェックしてもらいました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日2食になる利用者さんや水分を思うように摂れない利用者さんには本人の好むおやつや飲み物を用意するようにしている。入眠状態の長い利用者さんは摂取量も少なく又遅らせて摂取してもらおうと他利用者さんの勘違いも生じる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来ない方は口腔ケアの介助を行う。義歯洗浄剤も使用している。不穩時ケア出来ない時もある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ使用でも日中はリハビリパンツを使用しトイレ介助して極カトイレでの排泄を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向で動ける方には動いてもらっている。その他オリゴ糖や下剤を使用したり併用したり水分摂取量もチェックして少ない方には摂取を促している。自分で動けない方は運動量が確保できないので下剤使用となる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがバランスよく入浴できるよう一定の入浴ペースを決めている。その上で本人の希望も聞き汚染の多い方は毎日入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を確認し入眠のための介助を行う。ベットメイキングを毎日行う。睡眠障害がある方は主治医に睡眠導入剤を処方してもらっている。寝着に着替えてほしいが自宅での習慣が無い方が多くそのまま寝る方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に医師の説明を受け日誌に書きとめ他スタッフにも情報を共有する。薬はスタッフが管理し服用まで見守る。血圧や精神安定剤服用は特に注意深く観察する。誤薬がないように一人ひとりの病気を理解して服用してもらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	不穏時には外庭に出て話をしてみたりおやつや飲み物など好みのものに対応する。ほとんどの人が趣味が薄れているがドライブは楽しめるので優先して実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全員参加の外出は難しくなったが数人ずつの外出で楽しんでもらっている。地域行事にはなるべく参加するようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は家族より預かったおこずかいをスタッフが管理している。本人が希望するものはスタッフが代わりに購入し渡している。場合によっては家族に購入をお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいとの要求には対応している。不穏時は介助し家族との接触を心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔に保ちテレビやソファでくつろいで過ごせるように工夫している。自由に使用できる新聞・本・写真なども設置している。マッサージ機も利用できるようにしている。トイレ汚染が多く掃除が追いつかない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの場所や食堂の椅子等決まったそれぞれの場所がありそこを好まれる。車椅子の方が増えており移動時狭く感じる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの自立度によって日常生活用具も変わり居室の模様も違う。居室の広さは限られているのでその中で必要最低限のものを持ち込むようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットやポータブルトイレの位置、ベット柵の工夫など危険リスクを考慮し移動させたり取り除いたりして安全な日常生活動作に心掛けている。		